

学校目標・経営方針	自主・自律の精神と創造性を尊び、幅広い知性と豊かな人間性の涵養を図るとともに、常に自己と社会をよく見つめ、高い理想のもと広く社会で活躍する人材を育成する。
-----------	---

本年度の重点目標	1 学び方を学ばせる視点のもと、主体性を引き出す深い学びを推進し、批判的な思考を通して、本質を粘り強く追究しようとする探究的に学びとる力の育成に努める。
	2 自己実現を図る進路目標の設定とその達成に向けた取組を支援し、自分の立ち位置を知り、自己の可能性を切り拓く意欲の醸成に努める。
	3 部活動や学校行事、学校外活動など、様々な経験ができる機会を提供し、他者を思いやり認め合いながら、人との関わりの中で成長できるよう努める。
	4 PTA・同窓会・地域・高等教育機関などとの連携を深め、国際バカロレアの趣旨を生かすなど、時代のニーズに応える特色ある教育活動の構築と推進に努める。

「自分を律し、自己を高めていく」人間力の育成を目指し、右の通り取り組む。

達成度	A ほぼ達成できた。(8割以上)
	B 概ね達成できた。(6割以上)
	C 不十分である。(4割以上)
	D 達成できなかった。(4割以下)

評価	4 良くできている。
	3 できている。
	2 あまりできていない。
	1 できていない。

自己評価

本年度の重点目標			年度末評価(2月20日現在)			
番号	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	自己評価結果	達成度	成果と次年度への課題・改善策
1	主体性を引き出す深い学びを推進し、本質を粘り強く追究しようとする探究的に学びとる力の育成	「問いを立て追究する」という生徒の探究力向上を目指し、深い学びを提供する授業改善に取り組む。 教員のICT活用指導力の向上を図り、各教科等の目標を達成するためにICTを利活用する。 課題論文やIBを中心に据えながら、探究型学習プログラムや教育課程の開発整備に努める。	教員の自己評価 教員アンケート 教員の自己評価 教員アンケート 教育課程の編成 課題論文の指導計画 学校評価アンケート	・多くの教員が探究的学習を意識した授業改善を継続しており、生徒も学習の深まりを実感できている。 ・各教員はICT機器活用への意識を高く持ち、ICT機器を有効活用した授業を実施している。生徒も、ICT機器を道具として活用している。 ・課題論文については各教員の指導経験が蓄積されてきており、指導計画も修正を加えより効果的なものへと改善した。生徒の論文発表においても質がより高まったものが増えている。	A	・TOKの手法を取り入れた授業実践報告会を継続して行い、すべての教員がTOKの手法を取り入れた授業を行えるようにする。 ・ICT機器のさらなる効果的な活用方法を探っていく。 ・総合的な探究の時間(鳳凰学)における課題論文への取組が生徒の進路選択に生かせるようさらに改善していく。
2	自分の立ち位置を知り、自己の可能性を切り拓く意欲の醸成	生徒の学力向上に資する指導改善に向け、学びの基礎診断の結果をもとに生徒の基礎学力の分析と学力向上対策を適切に行う。 進路講演会や進路ガイダンスを適切に配し、入試等への理解度を高めるとともに、目標達成に向けた学力向上に資する課外や講座等の効果的な実施に努める。 目標を意識し、その達成に向けて自主的に取り組む自己管理能力を向上させるため、学習手帳の利用を進め、面談や個別指導等に活用する。	GTZ指標の変動 教員相互の授業評価シート 大学合格状況 学校評価アンケート 学校評価アンケート	・学びの基礎診断の結果は、学力到達度と問題別正答率等の分析をもとに今後の課題と対応策を教員間で共有し指導に生かしている。 ・各種講演会や進路ガイダンスは計画に則り適切に実施され、生徒の興味関心を高め進路選択の一助となっている。 ・生徒は自己管理に学習手帳を有効活用しており、面談は対面だけでなくオンラインも利用して適時実施している。	B	・新課程のもとでのカリキュラムが完成するので、学習のつながりなど、再確認する。 ・土曜講座の実施にあたっては、内容や方法についてさらなる検討を続けていく。 ・学習手帳の利用により生徒のタイムマネジメント意識の向上を図っていく。
3	部活動や学校行事、学校外活動などにより、他者を思いやり認め合いながら、人との関わりの中での成長を支援	豊かな人間性や人間関係形成能力の育成を図るため、生徒及び指導者のワークライフバランスの視点も含めながら、学校行事や部活動等のあり方を見直すことにより、生徒の主体的な取組を促す指導を推進する。 社会の一員としての自覚、社会参画への意欲などの醸成に向け、地域貢献や異校種間交流、ボランティア活動など、様々な体験ができる機会の提供に努める。 悩みや問題を抱える生徒の早期発見に努め、教職員間及び外部機関との連携を密にして、生徒一人一人の学校生活のサポートに努める。	学校評価アンケート 行事開催状況 学校評価アンケート 生活実態調査 学校評価アンケート	・生徒の学習活動と部活動の両立のための工夫と努力を継続している。また、学園祭などの学校行事も感染症等による制限がなく生徒の主体生や社会性を育成する場となっている。 ・異校種間交流として盲学校の学園祭で演奏を披露する取組を行うことができた。 ・保健安全部と年次が密に連携してきめ細やかな指導にあっている。また、スクールカウンセラーを効果的に利用できている。	B	・ICT等を活用した業務改善を進め、教員が生徒と向き合う時間の確保に向けた取組を継続する。 ・感染症などにより制限されていた活動がもとに戻りつつある状況において、ボランティア活動など生徒が様々な経験をすることができる環境を整える。 ・スクールカウンセラーや関係機関との連携を図り、悩みを抱える生徒のサポートに努める。また、生徒のプライバシーに配慮しつつ、生徒の情報を共有して教員集団で解決に向けて取り組む。
4	PTA・同窓会・地域・高等教育機関などとの連携を深め、国際バカロレアの趣旨を生かした特色ある教育活動の構築と推進	グローバル化や高度科学技術などに対する素養を身に付けさせるため、同窓会や大学、企業等との連携を図り、各種講演会など多様な学びの機会を提供する。 本校の特色化を図り、知的好奇心や探究心などの育成につなげるため、新入生に対してプレIB講座を実施するなど、IBの良さが共有できる教育活動を展開する。 教育活動の充実改善に生かすため、ホームページを情報発信に留めず、双方向的に利用し開かれた学校づくりに有効に活用する。	学校評価アンケート プレIB講座実績 学校評価アンケート HPアクセス数 学校評価アンケート	・同窓生や大学などとの連携を図って行った各種講演会は生徒にとって有意義なものとなっている。 ・1年次生に対して実施されたIB選択上級生によるプレIB講座により、IBへの関心を高めることができた。 ・ホームページによって教育活動の内容を適切に保護者等へ発信している。	A	・各分野で活躍する同窓生との連携により、生徒への多様な学びの機会の提供を充実させていく。 ・プレIB講座を継続するとともに、IB生の発信する情報をより多くの生徒に届くようにし、IBの良さを共有できるようにする。 ・ホームページを中学生とその保護者への情報発信の場としても捉え、本校のことをより知ってもらい親しみをもってもらえるように改善していく。

学校関係者評価

実施日 (令和6年3月4日)	
評価	意見・要望等
4	・課題論文は、進路選択に直接つながらなくても、高校での学習そのものの充実が期待できる取組だと思えます。全員で分担して指導されている先生方のご苦労に敬意を表します。 ・国際バカロレアの教育方針に則って進められていると理解しておりますのでその方針で進めていただきたいと思っております。 ・「山梨県探コンベンション」での最優秀受賞にもあるように生徒の向上心をより導き出せている。「西高探究の日」の実施等も良い刺激となって研究への興味を高めているのだと感じる。雪で登校困難な際にすぐにオンライン授業が実施できる体制がとられているなど、教員の意識の高さを感じる。効率と効果のバランス感は難しいとは思いますが常に進化を遂げるICTの柔軟な活用は永遠の課題。探究による研究成果が進路選択へも大きく寄与していると思われる。生徒が自ら動くことの重要性が浸透されており良い方向への道筋が立っている。 ・昨年度の課題設定にあつた「IB、特にTOKの要素を各教科の教育実践に積極的に取り入れていく必要がある。」が意識された実践が着実に定着してきており、総合的な探究の時間(鳳凰学)として実を結び、知への向き合い方として「探究」というスタイルが西高独自の文化として醸成されつつあることが窺えます。IB導入の大きな成果と言えるのではないのでしょうか。 ・先生方と生徒達の向き合い方等、昭和～平成、令和との時代で変わってきていると思います。その中で、お忙しい中、働を大切にしながら全体を引き上げていくのは大変な事だと思いますが、本質を見失わず、先生方の向く方向が一つとなり明るく活気ある学校生活となることを願っています。
3	・自分の立ち位置を知る、とは、学力や成績のことではなく、自分の個性を大事にして生きる覚悟であると思う。自分は自分、という意識が生徒の皆さんに育てて欲しい。 ・学習指導・進路指導その他研修会・講習会等については比較的小じな規模で、内部においては十分コミュニケーションのとれる程度の規模のものが効果的・効率的ではないかと思われるので検討をお願いしたい。 ・生徒個々の学力についての対応策を教員間で共有されていることが学力向上につながっているのだから教員の負担は大きいものと感じる。効率的に対処できる方法を探る必要もあるのでは。土曜講座も教員、生徒の双方の負担になりかねない。ここにもICT等を活用して質を落とさずに簡便化を図っていききたい。学習手帳の活用など個々に対する考え方の浸透を感じる。今後の継続的な取組がさらに良い結果を導くと思える。 ・今年度の学校自己評価においては、学びの基礎診断や進路実現に向けた取組が効果的であることが確認されています。特に、生徒の自己管理やオンライン面談の活用が進んでいる点も好評であり、これらの取組を継続していくことが望まれます。総じて、昨年度の課題に対する取組が着実に進んでおり、今後も引き続き生徒の学習環境の向上と進路実現へのサポートに努めていくことが重要です。 ・土曜講座に関しては、生徒達の中でも必要、不必要と意見は分かれると思いますが、必要だと感じている生徒の為に工夫をお願いしたいと思います。必要と感じている生徒は上へ伸びていきたくて思っていますし大切にしたいと思っています。課題の量については賛否あると思いますが、先生方の方針を大切にしたいと思います。
4	・学校行事や部活動、さまざまな社会活動の取組の成果が感じられました。まず自分を思いやり、自分を認める。日頃の何もない校風の中でもそういう方向に促されて欲しいと思います。 ・部活動・学校行事・学校外活動など人との関わりの中で社会の一員としての自覚・社会参画への意欲の向上を進める中で様々な社会性を高める経験をしてもらいたい。そのために特に地域の自治体行事・活動(具体的には防災訓練・地域文化祭等)に積極的に参加して社会生活に対する考え方の視野を広げてもらいたい。 ・様々な大会や発表の場で文武両道の結果は現れている。指導をする立場では課題も多いと思うが時代に即して行って欲しい。部活動による縦横の関係は人生の財産となる。三妻みらい財団の助成金を活用した講演会は生徒への大きな刺激になっている。今年度は池上彰氏の講演の機会もあり在校生にとってはラッキーであったと思う。また、ハンドのある方との交流の機会はとても重要と考えている。今後いろいろな場面での実施を期待する。スクールカウンセラーへの相談数の増加が気になるが、そういう時代なのか、メンタル面でフォローも教員の大きな負担になっていると感じる。さまざまなケースがあるとは思いますが退学者がゼロになることを願う。 ・昨年度の課題に対して、引き続き生徒の様子を見ながら異校種間交流やボランティア活動の実現を図るという取組が続いています。制限が緩和されつつある中で、生徒が多様な経験をできる環境が整えられていることが評価されます。総合的に見て、昨年度の課題に対して着実な進展があり、今年度も引き続き改善がなされていることが確認されました。特に、生徒との関わりにおいて留意すべき要素がしっかりと取組まれており、学校全体でのサポート体制が充実している印象です。今後も引き続き、生徒一人ひとりの成長を支援するための努力が期待されます。 ・部活動、学校行事は生徒にとっても大切な時間だと思います。今の時代、色々な事に追われ目指すものがズレてしまいがちで仲の良い仲間にならなくなる事もあるようですが、先生方と保護者が連携して心が潰れる事のない様見守り育てて欲しいと思います。まずは、保護者が子の話を聞いてあげる事、励ます事が大切と感じますが、先生方への要望が多く大変だと思います。先生方もご自身の心身が健全であります様に願います。
4	・校内からの情報発信は、在校生を動かすような内容に主眼を置き、外部からはその雰囲気を感じ取ることが自然で、結果的に生徒募集にも効果ある広報活動になるからと思います。 ・多分野で活躍するPTA、同窓生、地域、高等教育機関の方々との連携により小規模でも小回りの効く各種講演会・研修会等の積極的な開催してはどうかという。それらの催物を通して社会生活でのレベルの高い高校生を育成していただく共に今後の学校運営に少しもお役立ていただければと思っています。 ・大学や企業との接点から生徒が見出すものは多い、より積極的な催物の創出に期待する。生徒にとってIBの全体理解は容易ではないと感じている。プレ講座などの取組は大きい進捗に感じている。ホームページには生徒主導制作の動画リンクなど、他校と差別化できるものを積極的に取り込んでほしい。誰にも見てもらいたく作るのか、ターゲットの立場での作りこみがアクセス数を増やすはずだ。 ・同窓生や企業との連携を通じた学びの機会の提供や、IBの浸透を図る取組が、学校の特色ある教育活動を推進していると言えます。今後も連携強化と情報発信の改善に努め、より多くの生徒や関係者が学校の価値を理解し、共有できるように継続していくことが望まれます。ホームページのニューラルネットワークやIB生からの発信を楽しみにしています。 ・校舎等の環境面に関しては先生方の力はどうにもできないことだと思います。ホームページに関しては、やはりスピードやリアルが求められる時代だと思います。インスタでも若い力を借りても良いのではないかと思います。またまた、西高の魅力を生かす事、たくさんあると思います。これからも笑顔で学業に励む西高であって欲しいと願っています。

留意点 (1)重点目標と評価項目については、各学校の現状と課題に基づき、実情に合わせて重点化し、設定する。
(2)学校関係者評価については、年度当初に今年度の重点目標の現状と具体的対策を説明し、評価に必要な情報提供を計画的に行う。学校関係者評価実施日は、最終回の学校評価委員会等を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。